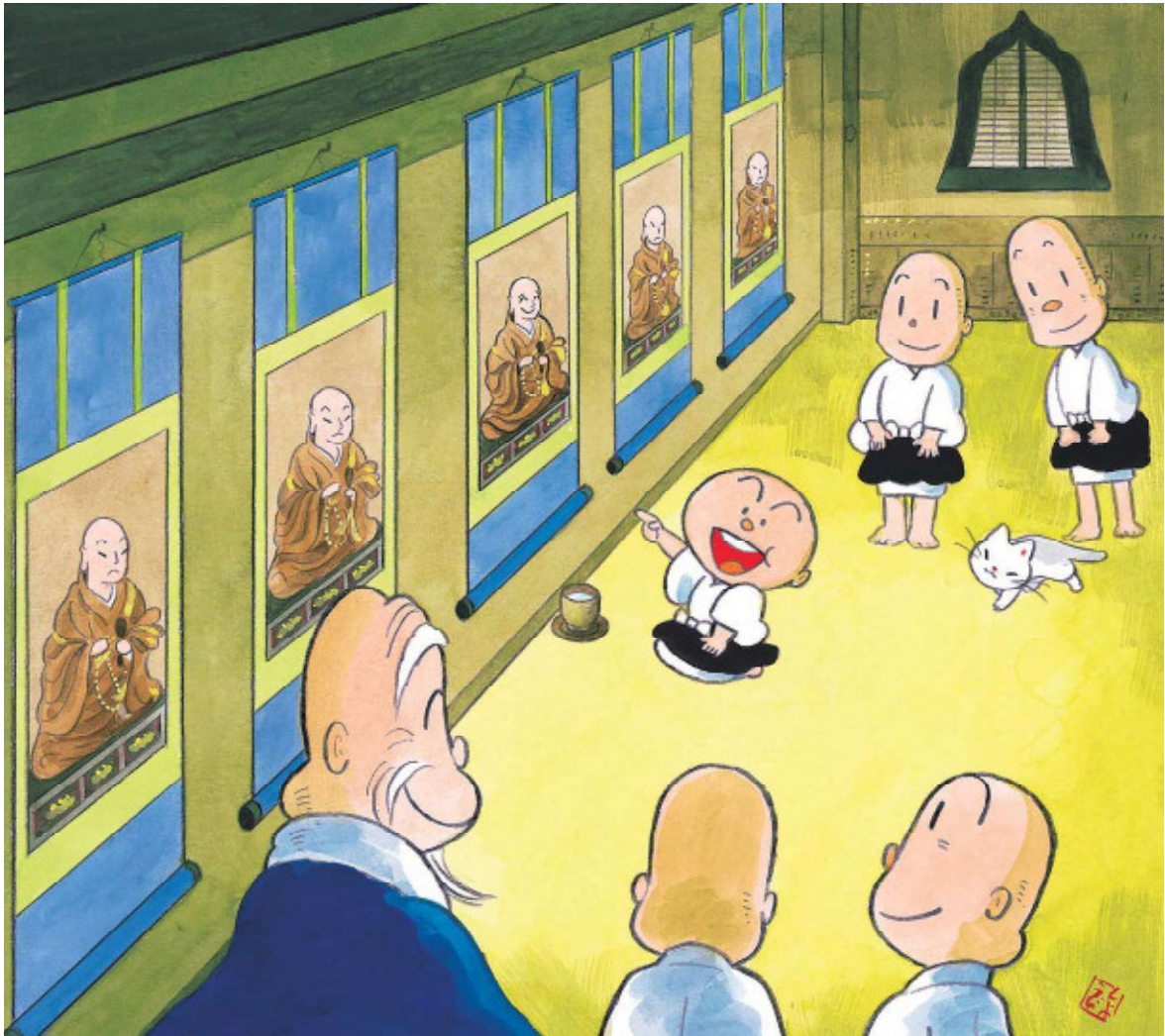


「広報しながわ」平成 19（2007）年 1 1 月 1 日号より転載
 （イラスト：池原昭治）



東五反田
 しながわ
 品川
 かし
 加藤 品川
 宝塔寺と元三大師の肖像画



その昔、法東寺というお寺が南品川にありまし
 た。その後、宝塔寺と名を変え、今では東五反田
 一丁目に移っています。お寺の石段を登って山門
 をくぐると、境内の左手には古いお堂があります。
 ここにまつられている元三大師の肖像画には、こ
 んなお話が残されています。

ある日、お坊さんがお経をあげていると、年寄いた
 僧が訪れて、一本のかけじくをそっと置いていきまし
 た。おつとめを終えたお坊さんが開いてみると、元三
 大師の肖像画でした。お坊さんはいそがしく喜んで、そ
 のかけじくをかけて、毎日お経をあげおつとめにはけ
 みました。すると、近くに住む漁師や信者がたくさん
 お参りに訪れるようになりました。

かけじくによってお寺の名が知れ渡るようになら
 ず、上野の寛永寺から「珍しい肖像画のようなので、
 ぜひ持ってきて見せていただきたい」という申し入れ
 がありました。お坊さんは、ほかのかけじくにまざれ
 てしまわないよう、うらに小さなめじろしをつけてお
 きました。

何日かたつて、寛永寺から「かけじくを返します」
 という知らせがとどきました。使いの小坊主が寛永寺
 に行くとき、そこには同じようなものが何本も並んで
 いました。「しまった。どれがうちのかけじくだろう？」
 小坊主は迷いましたが「はっと思いつき、「茶わんをか
 してください」とたのみました。肖像画の前にお茶を
 ささげると、大師の顔がほほえむことを思い出したの
 です。お茶をそなえながら歩いてみると、あるかけじ
 くの大師が「こりほほえんだようなので、小坊主は
 そのかけじくを受け取り、お寺に帰りました。

お坊さんが戻ってきたかけじくをうら返してみる
 と、ちゃんとめじろしがありました。まちがいでなくお
 寺のものでしたのです。このことがあった後、お寺は
 ますます栄えたということです。

元三大師とは、天台宗の僧「慈惠大師・由縁」のことです。
 一月三日に亡くなったことから、元三大師と呼ばれています。